

環境影響評価集計表

環境影響に関する授業一覧

分類：（１）自然環境、社会環境、文化環境、医学・保健環境等の理解促進に関わる授業

（対象年度：平成29年度 調査実施年度：平成30年度）

（２）環境側面（環境に影響を与える要因）を個別具体的に対象とする授業

| 部局 | No. | 授業題目 | 分類 | 学年 | 開講学科・専攻 | 担当者 | 授業の概要 |
|--------|-----|------------------|-----|-----|-------------------|-------|---|
| 人文学部 | 1 | 江戸時代の本屋さんとお茶 | (1) | 1～4 | 共通教育科目 | 速水香織 | 江戸時代に木版本を出版した板元と、その出版物の時代・時期による変化や社会変容を取り上げ、講義した。その中で、変化する環境の中で文化財を保護する重要性和難しさについても解説した。 |
| | 2 | 日本語教育学概論Ⅰ | (1) | 1～4 | | 沖 裕子 | 言語環境は人間活動を成り立たせている基盤であることを、日本語と外国語の例をもとに概説した。 |
| | 3 | 方言からみた日本語 | (1) | 1～4 | 共通教育 | 沖 裕子 | 言語環境は人間活動を成り立たせている基盤であることを、日本語の方言をとりあげて概説した。 |
| | 4 | 社会学特論Ⅳ | (2) | 2～4 | 人文学科 | 茅野 | 「環境社会学の諸理論」を主題として、日本と世界の環境社会学界において、どのような理論枠組みが、どのような環境問題を基盤として形成されてきたかを講義した。 |
| | 5 | 社会調査実習Ⅱ | (2) | 2～3 | 人文学科 | 茅野 | 上田市等において、太陽光発電による売電収入を事業への参与する人びとによってシェアする仕組みである「相乗りくん」の実践による、新たな共同性の創出の可能性に関する社会調査を実施した。 |
| | 6 | 環境エネルギー政策論 | (2) | 1～4 | 共通教育 | 茅野 | 世界および日本で進められているエネルギー戦略シフトの動向をふまえ、国際レベル、国全体、そして地方のレベルにおける環境エネルギー政策について学習。 |
| | 7 | 芸術コミュニケーション基幹演習Ⅰ | (1) | | 人文学科芸術コミュニケーション分野 | 金井 直 | 学外での展覧会運営。ワークショップや展示を通して、地域の自然・社会環境への理解を高める。 |
| | 8 | 中世英語文献学入門 | (1) | 1 | 共通教育 | 伊藤 盡 | 中世イギリス文献に残る作品の中で、イギリス人が自然環境をどのように理解していたかを学び、現代の環境問題を、中世イギリス人的な発想で再認識をする試みを行った。 |
| 全学教育機構 | 1 | 山国信州の風土とくらし | (1) | 1 | 共通教育 | 小山 茂喜 | 長野県の風土に合わせた人々の暮らしに焦点を当て、環境と暮らしとの関係を探求する視点を育む内容を展開した。 |
| | 2 | 地球環境の歴史 | (1) | 1 | 全学部 | 大塚 勉 | 地球の過去の調べ方、年代測定法、地球の誕生、大気組成の変遷、生命の誕生と進化、大陸移動とプレートテクトニクス、気候変動といったテーマを、地球の歴史に沿って、トピックを取り上げながら授業を展開する。グループ学習・発表を行う。 |

| | | | | | | | |
|--------|----|--------------------------------|-----|-------|---------------------------|-------------------------|---|
| 全学教育機構 | 3 | 自然災害と環境 | (1) | 1 | 全学部 | 大塚 勉 | 地球が温暖化する中で、川や海で起こる現象やしくみをよく理解し、将来予測や対策に役立てる必要がある。松本は大地震発生の確率がとくに高いとされている。活断層をはじめとする地質環境について学ぶ |
| | 4 | 数を読む技術 | (1) | 1 | 全学部学科 | 鈴木治郎 | 環境に関わるデータを正しく扱い理解することを助ける |
| | 5 | Low Energy Building (省エネルギー住宅) | (1) | 全 | 全学対象 | BRIERLEY MARK ALAN | 他の先進国と同様、日本で消費されているエネルギーの3割は、住宅で使われています。人口が増加し、化石燃料に限られてくる世界では、省エネルギー住宅が必要となります。エネルギー消費を減らすことで、居住者に快適で健康的な暮らしをもたらす、建物の耐用年数においても経済的です。本講義では、省エネ住宅の仕組み、その実用性と将来について紹介します。 |
| | 6 | ネイチャーライティングのすすめ (環境文学Ⅰ) | (1) | 全 | 全学, 高等教育コンソーシアム信州 遠隔配信 | 松岡 幸司 | 「ネイチャーライティング」を含む「環境文学」という文学ジャンルの視点、および作品を紹介し、そこに現れる自然・環境意識を「心でとらえる」学びを通して、「環境マインド」の育成を促進した。 |
| | 7 | 環境文学のすすめ (環境文学Ⅱ) | (1) | 全 | 全学, 高等教育コンソーシアム信州 遠隔配信 | 松岡 幸司 | 「環境文学」という文学ジャンルの視点、および作品を紹介し、そこに現れる自然・環境意識を「心でとらえる」学びを通して、「環境マインド」の育成を促進した。 |
| | 8 | ドイツ環境ゼミ | (1) | 主に1年次 | 全 | 松岡 幸司 | 「グローバルな視点で環境問題にアプローチできる姿勢と能力」を身につけるために、3週間のドイツ研修 (語学研修+環境視察) を行い、その成果をレポートにまとめ、公開報告会にて発表する。 |
| | 9 | 環境社会学入門 | (2) | 1 | 全学教育機構 | 金沢 謙太郎 | 本講では、環境社会学の理論的思考や実践的研究方法を学んだ上で、環境問題に対する自分なりの考察や批判ができることを目標とします。 |
| | 10 | 熱帯雨林と社会 | (2) | 1 | 全学教育機構 | 金沢 謙太郎 | 熱帯産の食料や資源などを事例に、それらの大量移動に伴う影の問題や現地社会と私たちが抱える現代的課題について考えます。 |
| | 11 | 生態資源論ゼミ | (2) | 1 | 全学教育機構 | 金沢 謙太郎 | 生態資源とは、人とともに存在してきた資源を指します。県内の生態資源を事例とし、それらの利用の歴史と現状、展望を探ります。 |
| | 12 | 環境マインドを現場で体験するゼミ (熱帯雨林) | (2) | 全 | 全学教育機構 | 金沢 謙太郎 | 国際協力の分野で実践されている Participatory Rural Appraisal (PRA) をマレーシア、サラワク州の農山村の現場で演習します。 |
| | 13 | 環境マインドを現場で体験するゼミ | (2) | 1 | 全学教育機構 | 大塚 勉 池田 敏彦 金沢 謙太郎 | 水生生物による環境調査、NPOの環境保全活動などの見学実習を通じて、信州の地域環境への理解を深め、社会貢献のあり方を議論します。 |

| | | | | | | | |
|--------|----|-------------------------------|-----|---|--------|------------------------|---|
| 全学教育機構 | 14 | 地球白書ゼミ | (2) | 全 | 全学教育機構 | 金沢 謙太郎 | 地球が直面している問題群を比較的平易な英文とそこに挿入されている図表から理解していきます。 |
| | 15 | トレッキング1 | (1) | 1 | 全学 | 廣野 準一 加藤 彩乃 | 「信州の自然体感」をテーマに、自己の身体を再確認し、運動の重要性の認識と生涯学習への導入を図るとともに、信州の自然環境を体感することにより環境問題についての理解を深める授業。 |
| | 16 | 健康科学・理論と実践 | (1) | 1 | 全学対象 | 速水 達也 | 体力向上および健康の維持増進に対する具体的方法を実践した。具体的には、ウォーキング、ジョギング、種々のエクササイズであった。 |
| | 17 | 農山村と環境(第2,3回) | (1) | 1 | 共通教育 | 内川 義行 | 農山村・中山間地の持つ自然資源や生物資源等の保全と活用について、多様な専門分野の教員がオムニバス形式で話題提供を行う |
| | 18 | エコ水車と地域バイオマス活用(6-10回フィールドワーク) | (1) | 1 | 共通教育 | 池田 敏彦 天野 良彦 林 靖人 | 信州の自然資源を活用した小水力・ナノ水力発電や木材等を中心とした生物由来資源を活用したエネルギー利用についてフィールドワーク等も交えながら学ぶ |
| | 19 | ジェンダー論 | (1) | 全 | 全 | 加藤 善子 | ジェンダーによるライフコース、労働環境(法的整備・経済状況含む)、生活環境、教育環境などの概説。 |
| | 20 | 生態遺伝学 | (1) | 2 | 生物学コース | 浅見崇比呂 | 自然環境における生物集団および生物群集の進化に関する生態と遺伝のメカニズム |
| | 21 | 進化遺伝学 | (1) | 3 | 生物学コース | 浅見崇比呂 | 自然環境に対応して生物が進化するメカニズム |
| | 22 | 進化多様性生物学 | (1) | 2 | 生物科学科 | 市野隆雄 | 人間の性質はどこまで遺伝子によって決まっているのか、また地球上に人類が出現して以来、人間はどれほど生物種の絶滅や生態系の攪乱を引き起こしてきたか。これらの点について科学的に広く理解することが第一のねらいである。 |

| | | | | | | | |
|----------|---|--------------------|-----|---|-----------------|----------------------|--|
| 医学部 | 1 | 実験動物学 | (1) | 3 | 医学部・保健学科・臨床検査医学 | 松本 清司 | 日常生活における化学物質の安全性確保について、医薬品、食品、農薬などを例にその安全性確保の現状と問題点を考える。 |
| | 2 | 放射線業務従事者に対する法定教育訓練 | | | | 廣田 | 放射線利用に伴う人体、環境への影響を最小限にするために必要な知識等について、法令に基づいて講義を行った。 |
| | 3 | 内視鏡と感染管理 | (1) | 4 | 保健学科検査技術科 | 菅 智明 | 内視鏡検査室で生じる可能性のある環境汚染と、その対処方法について講義を行った。 |
| 部内 局部 | 1 | 健康科学・理論と実践 | (1) | 1 | 全員 | 前センター長 川 茂幸 ほか | 大学教育における基礎的な能力として、大学生活を健全に送り、かつ生涯にわたって健康を維持増進するための健康科学の知識と実践方法の習得を目的とする。 |